生涯学習研究（宮崎大学生涯学習教育研究センター研究紀要）第1号，1996

調査報告

ボランティア活動に対する宮崎県民の意識

草野勝彦，緒方明夫，橋迫和幸，岡安孝弘，原　義彦

最近，ボランティア活動のことが話題にのぼることが多くなった。ボランティア活動は，自主性，無償性，公共性を原則とする活動であるが，それ故なのかわが国においてはあまり馴染まなかったという経緯がある。しかし，高齢社会の到来を契機とする福祉思想の普及，あるいは人口の過疎化現象を契機とする町おこしなどを通してボランティア活動は次第に身近なものとなりつつある。そして，阪神大震災においては，悲劇の報道が続く中，ボランティアの活躍は一条の光となって全国の注目を浴びた。ボランティア元年という表現も生まれ，宮崎県においてもボランティア活動への関心が高まりつつある。

ボランティア活動は生涯学習の視点からもその意義が評価されている。生涯学習審議会（平成4年答申）は次の三つの視点からボランティア活動を生涯学習に位置付けている。第一は，ボランティア活動そのものが自己開発，自己実現につながる生涯学習であるという視点，第二は，ボランティア活動を行うために必要な知識・技術を習得するための学習として生涯学習があり，学習の成果を生かし，深める実践としてボランティア活動があるという視点，第三は人々の生涯学習を支援するボランティア活動によって生涯学習の振興が一層図られるという視点である。

ボランティア活動への関心が高まりつつあるが，実際にボランティア活動を行っている人は必ずしも多いとはいえない。ボランティア活動をやってみたいと思っているが，さまざまな理由で行えないという声も聞く。

本調査は，現在宮崎県民がボランティア活動に対してどのような意識をもち，どのような活動を行っているのか，その実態を明かにするすることを目的とする。

方　法

1）調査対象

宮崎県在住の18歳以上の男女。

2）サンプル抽出法

地域別および性別による層化抽出法。宮崎県内44市町村から22市町村を抽出し，人口規模に応じて合計3000サンプルを抽出した。サンプルの回収数は2106（回収率70.2％），有効回収数は2106であった。

3）調査方法

郵送法および留め置き法。

4）調査実施期間

平成7年10月4日～12月31日。

結　果

1　ボランティア活動への関心の状況

図1は，宮崎県民のボランティア活動への関心度についてまとめたものである。ボランティア活動に「たいへん関心がある」と回答した人は全体の20.3％であった。これらの人と「少し関心がある」と答えている人を合わせると76.5％に達する。「関心」という点においては県民の関心度はかなり高いということができる。関心度を男女別にみると，女性（80.0％）の方が男性（72.5％）よりやや高い値となっている。

表1は，同じ回答を年代別にみたものである。「たいへん関心がある」と答えている人の割合が20歳未満の群では14.3％，20歳代群で

は11.4%と少ないが，以後，年齢があがるにつれて増加する傾向がみられ，70歳以上の群ではで32.3%に達している。

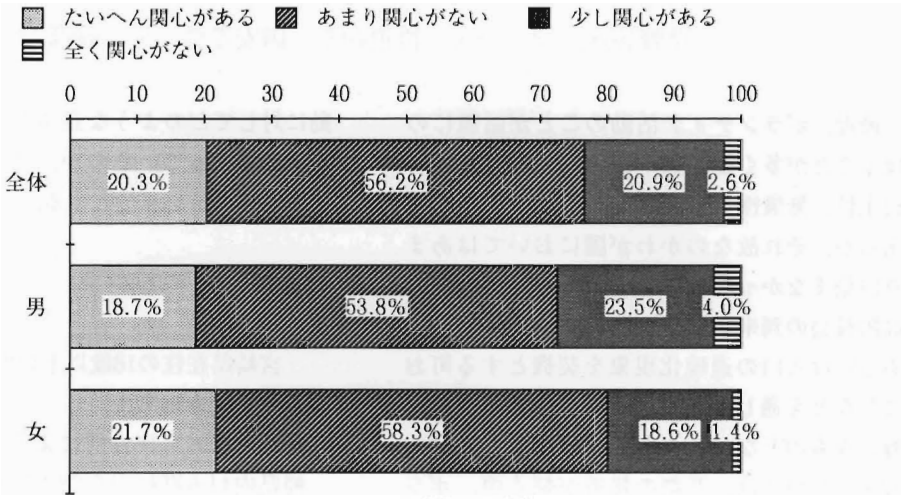

図1　ボランティア活動への関心

表1　年齢別にみたボランティア活動への関心

(%)

	たいへん関心がある	少し関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無記入	計
18～19歳	14.2	42.9	42.9	0	0	100.0
20～29歳	11.4	56.0	28.5	2.8	1.3	100.0
30～39歳	16.9	59.6	19.0	3.8	0.7	100.0
40～49歳	19.1	55.0	21.4	1.9	2.6	100.0
50～59歳	23.1	55.0	13.8	1.7	6.4	100.0
60～69歳	25.0	46.6	19.4	2.2	6.8	100.0
70歳以上	32.3	36.4	11.1	4.0	16.2	100.0

ボランティア活動への関心度の地域差をみるため地域別の比較をおこなった（表2）。「たいへん関心がある」と答えている人の割合は山村部で24.1%と最も高く，次いで都市部（19.2%），農漁村部（18.1%）の順になっている。一方，「全く関心がない」と答えている人の割合は都市部で3.0%，農漁村部で2.6%，山村部で1.4%となり，都市部の値がやや高くなっている。

図2はボランティア活動の必要性をどのように感じているかについてまとめたものである。ボランティア活動を「たいへん必要である」と感じている人は全体の67.5%で，「少し必要である」と答えたものを合わせると95.8%に達する。性別には，男性94.8%，女性96.7%となり，ほぼ同様の割合になっている。

表3は，必要性を年代別にみてみたものである。ボランティア活動を「たいへん必要である」と感じている人の割合はいずれの年代群においても60%以上の値となり，高い割合

を占めている。

表4は，ボランティア活動の必要性を地域別にみたものである。「たいへん必要である」と感じている人の割合は，いずれの群も60%台となっており，地域差はあまりみられなかった。また，「全く必要でない」と回答した人の割合は低かった。

表2　地域別にみたボランティア活動への関心

(%)

	たいへん関心がある	少し関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無記入	計
都市部	18.4	53.1	21.3	3.0	4.2	100.0
農漁村部	18.1	55.2	21.0	2.6	3.1	100.0
山村部	24.1	52.9	15.7	1.4	5.9	100.0

表3　年齢別にみたボランティア活動の必要性

(%)

	たいへん関心がある	少し関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無記入	計
18～19歳	71.4	28.6	0	0	0	100.0
20～29歳	66.2	29.4	1.7	0.6	2.1	100.0
30～39歳	65.7	28.9	2.6	0.7	2.1	100.0
40～49歳	63.1	28.3	4.3	0.9	3.4	100.0
50～59歳	62.2	26.0	3.7	0.7	7.4	100.0
60～69歳	64.5	23.1	3.7	0.9	7.8	100.0
70歳以上	63.6	18.2	1.0	1.0	16.2	100.0

表4　地域別にみたボランティア活動の必要性

(%)

	たいへん関心がある	少し関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無記入	計
都市部	65.1	26.2	2.7	1.1	4.9	100.0
農漁村部	64.0	27.7	3.9	0.7	3.7	100.0
山村部	62.4	26.8	2.9	0.2	7.7	100.0

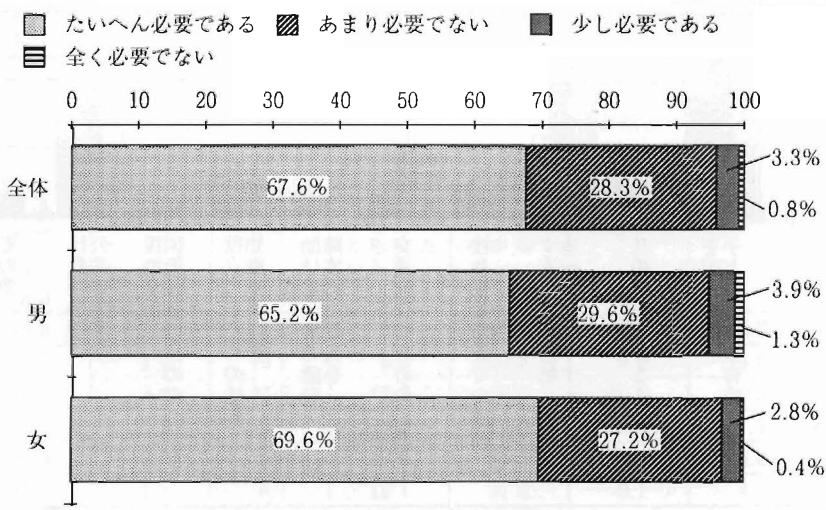

図2　ボランティア活動の必要性

2　ボランティア活動の状況

図3は，この1年間に取り組んだボランティア活動についてまとめたものである。全体の約半数がこの1年間にボランティア活動を行っていた。その内容は「子どもの健全育成をはかる活動（20.4%）」が最も多く，次いで「地域を住みやすくするための活動（14.4%）」，「公共の施設や行事の手伝い（13.8%）」となっている。なお，率は少ないが「国際親善のための援助をする活動（1.4%）」や「障害のある人を助けるための活動（3.3%）」などの活動もみられる。

これを年代別にまとめたのが表5である。20歳未満では，最も高いのは「公共の施設や行事の手伝い（28.6%）」であった。20歳代でも，比較的高いのは「公共の施設や行事の手伝い（9.9%）」，「地域を住みやすくするための活動（9.1%）」であった。30歳代および40歳代では「子どもの健全育成を図る活動」が，それぞれ38.3%，34.4%と他の年代に比べ高い割合を示した。50歳代では，「地域を住みやすくするための活動（18.9%）」が高かった。60歳代でも，「地域を住みやすくするための活動（16.6%）」が高く，加えて「高齢者を助ける活動」（14.0%）が他の年代群と比較すると高い割合を示した。

表6は，ボランティア活動に取り組むようになったきっかけをまとめたものである。「社会の役に立ちたいと思ったから」と答えた人の割合が27.0%と最も高く，次いで「友人や知人に勧められたから」（15.8%），「学校や職場で勧められたから」（14.1%）となっている。これを性別にみると，男女とも「社会の役に立ちたいと思ったから」が最も高くなっている。男女差が現われたのは，「自分の知識・技能・経験を活かしたいと思ったから」で，男性が女性よりも高い値を示した。

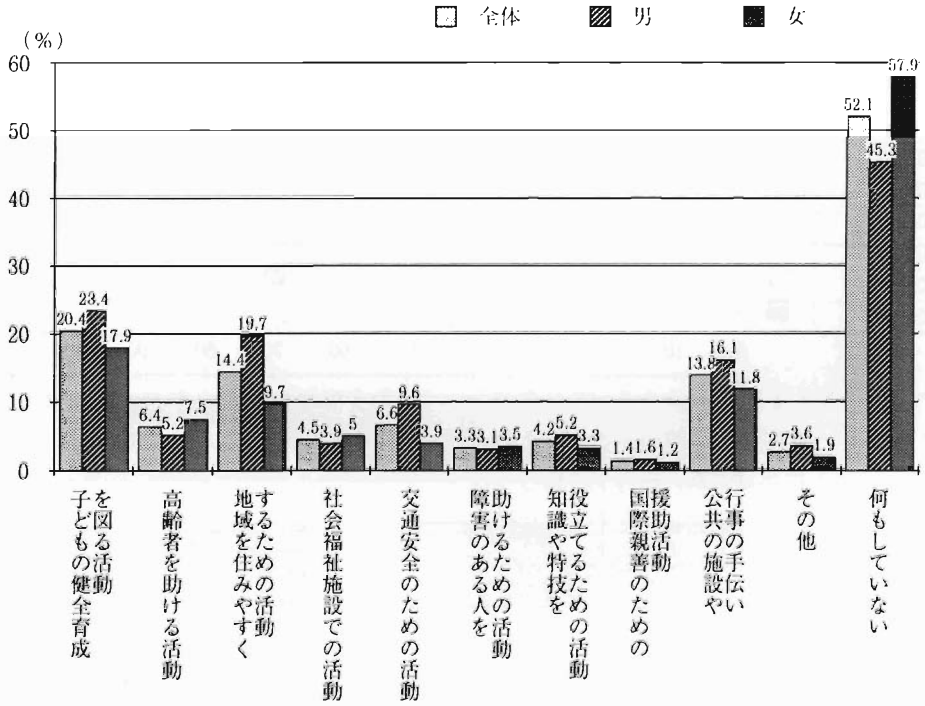

図3　ボランティア活動の内容（複数回答）

表7は，その回答を年代別にまとめたものである。「きっかけ」に年代によって若干の違いがみられる。最も高い割合を示す項目をみると，20歳未満では「自分の知識・技能・経験を活かしたいと思ったから（25.0%）」であり，20歳代では「学校や職場で勧められたから（21.2%）」である。また，30歳代以上は「社会の役に立ちたいと思ったから」が最も高い割合を示した。これに続く項目としては「学校や職場で勧められたから」や「自分の知識・技能・経験を活かしたいと思ったから」などがあげられた。これらのことから，県民がボランティア活動に「自分の知識・技能・経験を活かす場」や「社会のへの貢献度を感じる場」を求めていることがうかがわれる。

表5　年齢別にみたボランティア活動の内容（複数回答）

（%）

	子どもの健全育成を図る活動	高齢者を助ける活動	地域を住みやすくするための活動	社会福祉施設での活動	交通安全のための活動	障害のある人を助けるための活動	知識や特技を役立てるための援助活動	国際親善のための援助活動	公共の施設や行事の手伝い	その他	何もしていない
18～19歳	0	7.1	7.1	0	7.1	7.1	7.1	0	28.6	7.1	57.1
20～29歳	8.8	2.8	9.1	5.1	5.7	2.3	2.8	1.7	9.9	2.8	65.3
30～39歳	38.3	2.6	11.7	1.2	5.5	3.1	4.1	2.6	12.2	2.4	46.9
40～49歳	34.4	4.9	14.2	3.1	6.7	2.9	4.4	0.7	13.3	2.4	45.8
50～59歳	9.6	9.0	18.9	5.9	8.2	4.3	4.3	0.8	16.5	2.1	52.9
60～69歳	6.6	14.0	16.6	8.6	6.6	4.3	5.3	0.7	17.3	3.0	51.8
70歳以上	7.0	9.3	23.3	5.8	8.1	3.5	5.8	3.5	12.8	4.7	48.8

表6　ボランティア活動に取り組むようになったきっかけ（複数回答）

（%）

	友人や知人に勧められて	家族に勧められて	学校や職場で勧められて	自分の知識・技能・経験を活かしたいと思ったから	社会の役に立ちたいと思ったから	自分の存在感を確かめたいと思ったから	その他	したことがないので答えられない
全体	15.8	3.1	14.1	11.5	27.0	6.9	9.0	40.4
男	14.9	4.4	16.4	14.6	29.1	8.9	8.3	35.6
女	16.7	1.9	12.0	8.5	24.9	5.0	9.7	45.0

表7　年齢別にみたボランティア活動に取り組むようになったきっかけ（複数回答）

（%）

	友人や知人に勧められて	家族に勧められて	学校や職場で勧められて	自分の知識・技能・経験を活かしたいと思ったから	社会の役に立ちたいと思ったから	自分の存在感を確かめたいと思ったから	その他	したことがないので答えられない
18～19歳	8.3	0	16.7	25.0	8.3	8.3	0	50.0
20～29歳	15.5	1.6	21.2	8.6	15.5	4.9	5.3	48.6
30～39歳	15.6	1.7	19.2	9.9	23.5	5.6	14.6	35.4
40～49歳	15.0	3.3	17.9	12.3	26.6	10.6	10.3	33.2
50～59歳	15.3	3.8	6.0	13.6	37.0	6.0	7.7	40.9
60～69歳	16.4	6.3	3.9	13.0	34.3	6.3	6.8	45.9
70歳以上	21.2	1.5	6.1	12.1	31.8	9.1	4.5	43.9

3　ボランティア活動の阻害状況

県民のボランティア活動への関心や必要性の意識は高いものの，この1年間に実際にボランティア活動を行った人は調査対象者の半数ほどであった。図4はボランティア活動をしなかった理由をまとめたものである。ボランティア活動をしなっかた理由として最も多かったのは「仕事（勉強）などが忙しくて時間の余裕がない」で38.3%を占めた。次いで「機会がない」が35.0%，「特に理由はない」が26.6%である。「家族の理解がない」（0.8%）や「職場の理解がない」（0.5%），「ボランティア活動があまり評価されていない」（0.6%）などの理由は低い割合であった。

性別にみると，上位2項目の「仕事（勉強）などが忙しくて時間の余裕がない」，「機会がない」は同じであったが，3位にあげられたのは，男性の場合は「特に理由はない（28.4%）」，女性の場合は「やりたいと思っているが，何をしたらよいかわからない（25.5%）」であった。

これを年代別にみたのが，表8である。20歳未満および20歳代では「機会がない」が高い割合を占め，30歳代，40歳代，50歳代では「仕事（勉強）などが忙しくて時間の余裕がない」，60歳代，70歳以上では「特に理由はない」となった。理由について年代ごとにみてみると，「仕事（勉強）などが忙しくて時間の余裕がない」が30歳代から50歳代の働き盛りの年代で高い割合を示している。また，「機会がない」が20歳未満で最も高く，年齢とともに少なくなっている。「ボランティア活動に関する

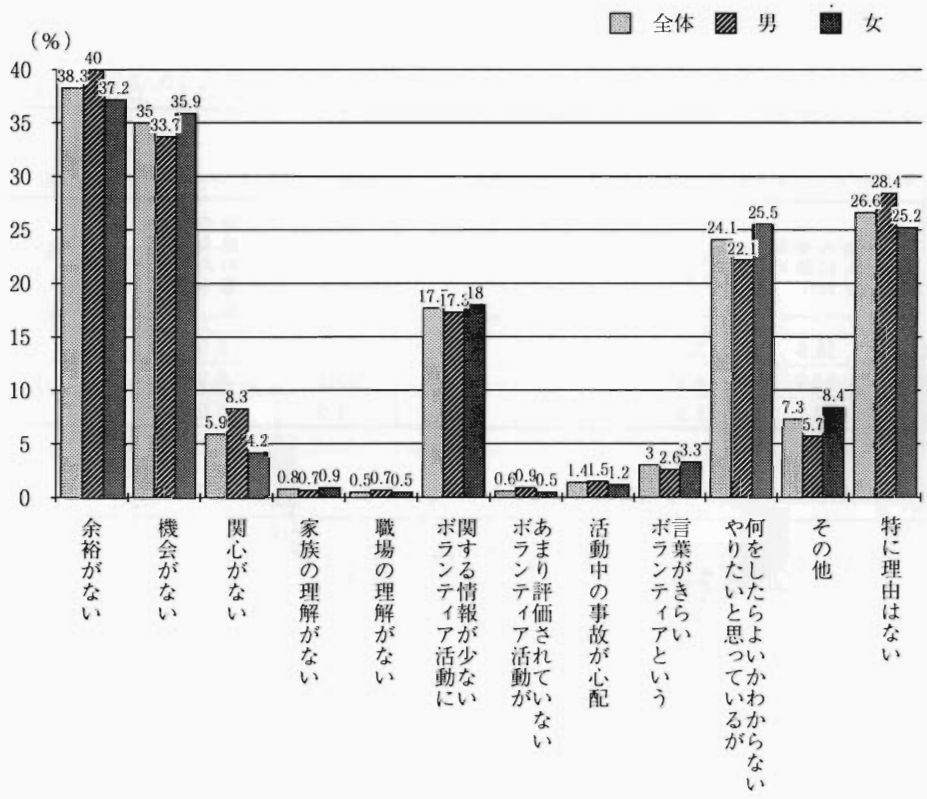

図4　ボランティア活動をしない理由（複数回答）

表8　年齢別にみたボランティア活動をしない理由（複数回数）

（%）

	忙しくて時間の余裕がない	機会がない	関心がない	家族の理解がない	職場の理解がない	ボランティア活動に関する情報が少ない	ボランティア活動があまり評価されていない	活動中の事故が心配	ボランティアという言葉がきらい	やりたいと思っているが何をしたらよいかわからない	その他	特に理由はない
18～19歳	12.5	50.0	12.5	0	0	25.0	0	0	0	37.5	0	12.5
20～29歳	30.5	46.8	9.8	0	0	23.2	0	0.9	4.7	29.2	3.9	16.3
30～39歳	41.2	34.7	6.5	1.5	0	20.6	0.5	1.5	4.5	23.6	8.5	20.1
40～49歳	47.4	32.8	6.0	1.7	1.3	13.8	0	0.4	3.9	23.7	4.7	25.4
50～59歳	48.0	31.7	3.6	0.5	0.9	18.1	0	2.3	0.9	23.1	6.8	28.5
60～69歳	29.2	28.7	3.5	0.6	0.6	11.7	2.9	2.9	1.2	19.3	12.3	41.5
70歳以上	15.6	20.0	4.4	0	0	15.6	2.2	0	0	26.7	15.6	48.9

表9　地域別にみたボランティア活動をしない理由（複数回答）

（%）

	忙しくて時間の余裕がない	機会がない	関心がない	家族の理解がない	職場の理解がない	ボランティア活動に関する情報が少ない	ボランティア活動があまり評価されていない	活動中の事故が心配	ボランティアという言葉がきらい	やりたいと思っているが何をしたらよいかわからない	その他	特に理由はない
都市部	41.5	34.9	6.0	0.8	0.9	18.7	0.6	1.1	3.4	24.2	7.9	22.3
農漁村	36.6	35.1	5.2	0.8	0	15.8	0.3	1.6	2.6	24.2	6.5	32.5
山村部	34.3	33.8	7.1	1.0	0.5	18.2	1.5	2.0	2.5	24.2	6.6	26.8

情報が少ない」は20歳未満で25.0%みられ，20歳代，30歳代で20%前後，他の年代でも10%前後みられる。「やりたいとは思っているが，何をしたらよいかわからない」が20歳未満と20歳代，70歳以上で高くなっている。「特に理由はない」は20歳未満では低い割合であるが，年齢とともに高くなっている。

表9は，ボランティア活動をしない理由を地域ごとまとめたものであるが，地域による顕著な差はみられなかった。

4　ボランティア活動についての希望

図5は，県民が今後どのようなボランティア活動に取り組みたいと思っているのかをまとめたものである。34.4%が「地域を住みやすくための活動」を選んでいる。次いで「子どもたちの健全育成を図る活動（25.1%）」となっている。性別にみると，男女ともに「地域を住みやすくための活動」が1位で，次いで，男性の場合は「子どもたちの健全育成を図る活動（26.3%）」，「高齢者を助ける活動（16.8%）」と続く。女性では，「高齢者を助ける活動（27.4%）」，「子どもたちの健全育成を図る活動（24.1%）」となった。

図6は，同じ内容について，ボランティア活動を行わなかった人のみの回答をまとめたものである。「地域を住みやすくための活動」が1位で，次いで「高齢者を助ける活動」，「子どもたちの健全育成を図る活動」の順になった。やってみたいものは「特にない」と答えた人は27.2%であった。

表10は取り組みたいボランティア活動を年代別にまとめたものである。それぞれの項目について，年代による変化をみると，「子どもたちの健全育成を図る活動」については，20歳未満では最も低い割合（7.1%）を示し，30歳代で最も高い割合（36.7%）を示している。「高齢者を助ける活動」は年齢が高くなるほどその割合が高くなり50歳代から70歳以上の年代では28%前後の割合になっている。「地域を

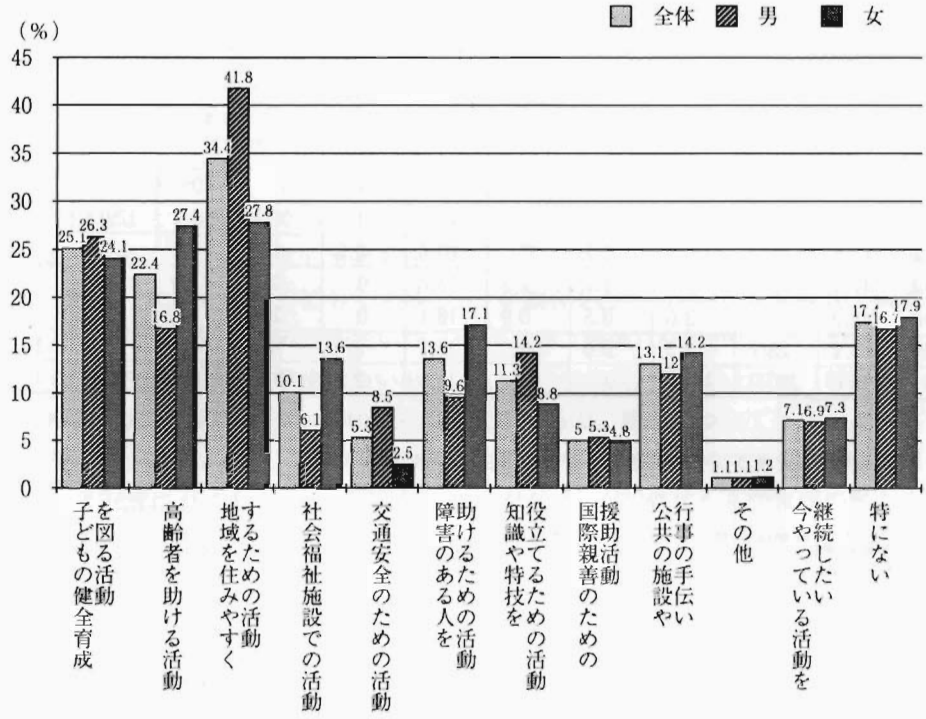

図5　今後取り組みたいボランティア活動（複数回答）

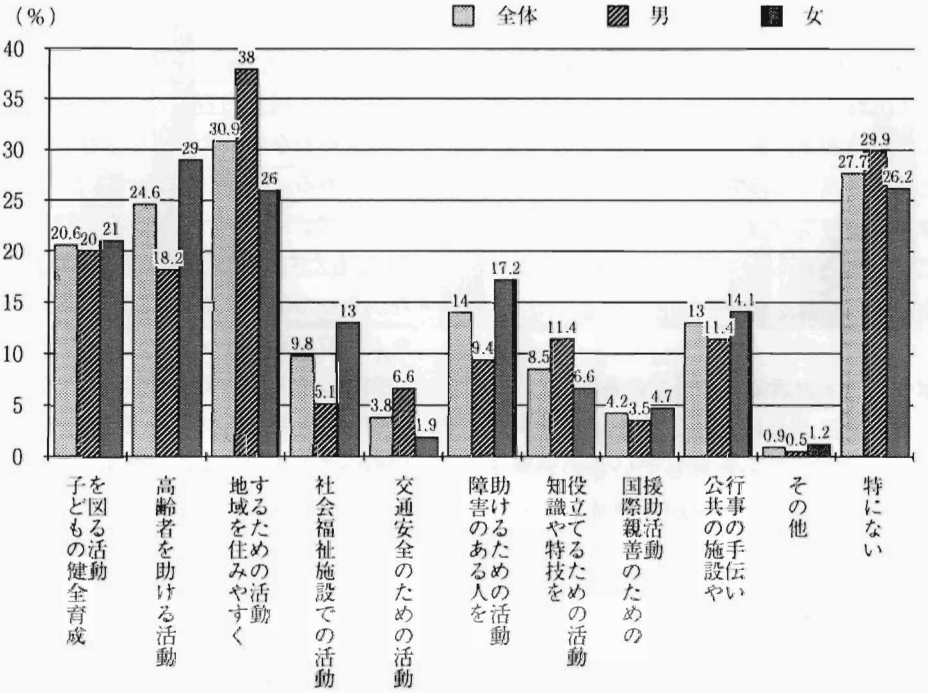

図6　ボランティア活動未経験者における性別にみた今後取り組みたいボランティア活動

表10　年齢別にみた今後取り組みたいボランティア活動（複数回答）

（%）

	子ども健全育成活動	高齢者助活動	地域住みやすくするための活動	社会福祉施設での活動	交通安全のための活動	障害のある人を助けるための活動	知識や技術を役立てるための活動	国際親善のための援助活動	公共の施設や行事での手伝い	今つづけたい活動	特にない
18～19歳	7.1	21.4	14.3	7.1	0	14.3	21.4	14.3	28.6	0	28.6
20～29歳	23.1	17.7	21.7	12.8	4.8	20.2	12.5	11.4	14.0	1.1	5.1	16.0
30～39歳	36.7	15.3	27.3	7.1	4.9	14.5	15.8	5.4	11.1	1.5	8.4	16.7
40～49歳	27.6	23.4	33.3	11.7	3.8	13.5	10.3	4.7	12.1	0.4	5.8	18.7
50～59歳	19.7	27.9	45.5	10.6	5.1	10.4	9.8	2.4	16.0	0.8	8.5	14.6
60～69歳	18.4	28.1	46.9	10.1	8.3	8.0	8.7	0.7	13.5	2.1	7.3	17.0
70歳以上	14.6	28.0	39.0	6.1	8.5	13.4	4.9	2.4	7.3	1.2	9.8	28.0

表11　ボランティア活動未経験者における年齢別にみた今後取り組みたいボランティア活動(複数回答)

（%）

	子どもの健全育成を図る活動	高齢者を助ける活動	地域を住みやすくするための活動	社会福祉施設での活動	交通安全のための活動	障害のある人を助けるための活動	知識や技術を役立てるための活動	国際親善のための援助活動	公共の施設や行事での手伝い	その他	特にない
18～19 歳	0	25.0	12.5	12.5	0	12.5	12.5	12.5	12.5	0	37.5
20～29 歳	20.9	17.3	20.0	14.5	3.2	20.5	11.4	10.9	16.8	0.5	20.9
30～39 歳	29.6	19.6	22.9	8.9	3.9	14.5	14.5	4.5	10.1	1.1	28.5
40～49 歳	21.7	29.8	26.8	10.6	3.0	14.1	4.5	3.5	12.1	0.5	30.8
50～59 歳	16.8	31.1	44.2	10.5	2.6	11.6	6.8	0.5	14.7	0.5	24.2
60～69 歳	15.3	27.1	47.2	4.9	8.3	6.9	6.3	0	11.1	2.8	28.5
70歳以上	13.5	24.3	29.7	0	0	13.5	0	0	5.4	0	56.8

※母数の実数は8

住みやすくするための活動」は，年齢とともにその割合が高くなり，60歳代では，46.9%の人が取り組みたい活動としてあげている。「社会福祉施設での活動」は，年代による変化は少なく，10%前後であった。「交通安全のための活動」は，20歳未満で0%，年齢が高くなるにつれて若干増加するが，7～10%の範囲であった。「障害のある人を助ける活動」は，20歳代で最も高く20.2%，その他の年代では10%前後であった。「自分の知識や特技を役立てるための活動」は，20歳未満の21.4%を最高に年齢とともにその割合は減っている。「国際親善のための援助活動」も同様で，若い世代が高く，20歳未満の14.3%が最高で，以後年齢とともにその割合は低くなっている。「公共の施設や行事での手伝い」は，20歳未満で28.6%と高くその他の年代で13%前後，70歳以上では7.3%であった。表11は，同じ内容について，ボランティア活動をやっていない人のみの結果をまとめたものである。やりたいものは「特にない」という人は20～30%の値であった。

（1996年3月11日受稿，1996年3月21日受理）